

広 報

平成28年2月29日

## 特 活

第165号

横浜市立小学校特別活動研究会  
発行 会長 新美 美由子  
編集 広報委員会

## 「子どもを知る」ということ

横浜市教育委員会 人権教育・児童生徒課  
主任指導主事 小倉克彦

数年前にスタートカリキュラムの授業を拝見した時のことです。入学式を終えて4～5日といったところでしょうか。担任の進行で、楽しくゲームが進んでいきます。子どもたちの歓声や笑顔からは、リラックスしてゲームを楽しんでいる様子が伝わりました。そんな中に、机の下に潜っている子が1人いました。わたしは、「先生はどのようにかかわるのだろうか」と心配しつつも、少し期待しながら見守りました。担任は、ゲームを進行しながら、時々机の下にいる子どもに視線を送っているようでした。しかし、アプローチらしいことはなされず、その子もゲームに参加することなくその時間を終えました。

わたしは、「友だちと一緒に楽しく過ごすことができないこの子にとって、学校が楽しいところではなくなってしまうのではないか」と心配になり、そばでご覧になっていた校長先生に尋ねました。校長先生は、「幼稚園からの引継ぎでは、『環境の変化への対応が苦手で、集団に馴染むまでに時間がかかってしまう』と聞いています。だからこの状況は予想通りなんですよ。」

「今日、この子はゲームに参加していないように見えたけれど、ゲームをしている友だちのことを机の下からよく見ていたし、表情も柔らかかったでしょう。だから、わたしたちは、この子なりに精一杯ゲームに参加していたし、楽しんだととらえています。」

「あと1週間でゲームに参加するはずです。」

とおっしゃいました。

これを聞いたわたしは、心が震えるような気持ちになりました。担任が、ゲームに参加するよう促すことなく視線を送っていたのは、現状の子どもをあたたく受けとめ、認めるメッセージだったのです。つまり、自信をもって「声をかけない支援」を選択したのです。もし、自分がその場で指導していたら「一緒にゲームをしよう」「今度は参加できるといいね」等と声をかけていたはずですが、どんなにあたたかく、笑顔で声かけをしたとしても、それはゲームに参加しないことをよしとしないメッセージになり、それはこの子の主体性を促す支援にはならなかったのだと思いました。ゲームに参加しない子どもに「今の状況としては、十分である。主体的に参加している。」と評価できる学校の児童理解、担任の指導に、頭が下がる思いで学校を後にしました。

後日、校長先生にお尋ねしたところ「4月の後半には笑顔でゲームに参加していた」「2年生になったが登校渋りもなく、おだやかに教室で過ごしている」とのことでした。

子どもが、自分らしく、自信をもって学校生活を送るためには、「子どもの力を信じ、認める」教師の存在が重要です。だからこそ教師が、1人ひとりの言動の背景にある気持ちや個性をよく知る必要があります。ゲームに参加しない子どもに声をかけずに支援した前述の担任から、改めて「子どもを知ること」の大切さを考えました。

## 授業研究会

12月2日(水)、市内7会場にて行われました。当日の様子を漢字一字で表しました。



活動名：『ウォーターマンのたんじょうびパーティー』をひらこう

議題名：「プレゼントメダルのおもてになにをのせるかきめよう」

話合ってわくわく！**躍**

### 【授業の様子】

「なるほど!」「うん、うん」と受け止め合いながら子どもたちは安心して話合いに参加していた。また、教師が「どうしてそう思ったの。」「もっとくわしく言ってみて。」とそれぞれの思いを引き出す声掛けをしていた。メダルにのせることが決まり嬉しさについて踊りだすなど、わくわくいっぱい話合いとなった。

### 【研究協議・指導好評の概略】

- 子どもが自分の思いを伝えながら話し合うことができ、自分が価値ある存在であることを感じるようになってきた。
- 集会活動のめあてが、子どもたちにとって明確になっていることが集団決定をする上では大切。悩みながらもみんなで一つのことを決めることができたことを喜ぶ子どもたちの姿は素晴らしかった。

活動名：『100%ズボンができたよパーティー』をひらこう

議題名：「ケーキの新しいだんにつけるハートの中みをきめよう」

友だちの意見に納得！**聴**

### 【授業の様子】

「どうしてそう思ったのか。」と教師が問いかけたことで、「このケーキがこうなると、自分たちも〇〇になる。」と自分の思いを明確に語るようになってきた。話合いを通して、友達の思いを聴き合い、クラスキャラクターの「こころまん」への思いをみんなで確かめ合うことができた。

### 【研究協議・指導講評の概略】

- 一人ひとりの思いを大切にしながら、出た意見を整理し、話合いを焦点化していった。「理由がもう一つ見つかりました。」という発言もよかった。
- 話合いは聞き合いであり、聞いているから考えも変えることができる。実物を提示しながら話し合ったことで、イメージをもって友達の考えを聞き、意見を比べながら集団決定をすることができた。

活動名：「1個完成記念『わんたパフェ』パーティーをしよう

議題名：「みんなで一つのことをして、パフェを完成させたことをみんなで喜べる『パフェすごろく』のゴールの仕方を決めよう」

**好** 友だち、先生、だーい好き!

### 【授業の様子】

みんなでスプーンとフォークを持ってバンザイをして記念写真を撮るに決まった。提案理由に立ち返りながら、大好きなクラスのためによりよい方法を考えようとする子どもたちの姿がよく見られた。

### 【研究討議・指導講評の概略】

- 「意見は出るが決めるのは苦手」という子どもの実態と「子どもたちに合意形成をさせたい」という教師の思いがあるのなら、1つのものに決めることができる議題が必要であった。話合いでどのような力をつけたいか、その力をつけるための議題はどんなものか考えていかななくてはならない。
- 特別活動の話合いは、実践のために集団決定をする。答えは決まっていなくて、一つでもない。だからこそ、理由が大切になる。比べ合うときには、理由を確認することで、互いの思いを知っていけるようにしたい。理由へのアプローチが合意形成につながる。

活動名「ハッピーポテト村の光祭りを成功させよう」

議題名「今までにない喜びを味わうことのできる点灯式のやり方を決めよう」

みんなの思いは一つ。創

【授業の様子】

図工で作ったランプを使って行うお祭りの点灯式の方法について話し合われた。話し合いでは、互いの考えを伝え合い、みんなで一つの活動を創っていかこうとする気持ちが共有されていた。

【研究討議・指導講評の概略】

- 一人ひとりが企画書を書き、この集会活動に臨んでいる。そのため、話し合う中でも、友達の見解を分かろうとする気持ち、活動を創っていかこうという気持ちが表れていた。
- 「今までにない喜び」の共通理解をもつことは難しい。今まで経験したことをもとに話し合うと、イメージを共有することができる。

活動名：「あかふくたいようパーティーで2年生との交流を深めよう」

議題名：「あかふくたいようパーティーでつくる、  
2525（ニコニコ）の木のかざりの作り方を決めよう」

光 きっと喜んでくれるね！

【授業の様子】

2年生との交流をさらに深めるために、「2年生と一緒に集会をつくっていかこう」とする気持ちを共有することができた。話し合いの後、本番を思い描いている子どもたちの表情が期待に満ちて光っていた。

【研究協議・指導講評概略】

- 2年生と長くかかわりたいという思いを伝え合う話し合いであった。また、これまでに学んだことが可視化された素晴らしい教室環境である。
- 何について話し合っているのか、子どもの中のイメージがバラバラになっている場面があった。そのように話し合いが迷子になっている時には、教師が整理する助言をする必要がある。

活動名：「一人ひとりの個星を輝かせて1年生との笑顔ワクワク集会を成功させよう！」

議題名：『さすが6年生』と1年1組のみんなに思ってもらえるような  
6年1組みんなのできる会の終わり方の工夫を決めよう」

担任が子どもを、子どもが先生を 信じて

【授業の様子】

どうしたら1年生が楽しんでくれるか、思い出に残るかを真剣に考えていた。計画委員が計画に沿って1つずつ決めていくことができたので、まとまった話し合いになった。折り合いをつけられなかった子どもが、教師の声かけで納得する姿を見ることができた。

【研究協議・指導講評の概略】

- 提案者が活動に強い思いをもっていたので、原案がくわしく、話し合うことが明確になっていた。そのことがよりよい集団決定につながった。
- 提案理由と話し合いのめあてにある「さすが6年生」という言葉にこだわることで、さらに話し合いが深まった。

活動名：「6-1ヒストリーで刻んだ“歴史”を、形に残そう！」

議題名：「クラス紹介集会のラストポーズを決めよう」

絆 このクラスで過ごした時間。

【授業の様子】

学校生活最後の「クラス紹介集会」で「自分たちの良さ」が伝わるポーズを決める。提案となるポーズを映像で流し、それぞれのポーズの良さを出し合った。これまで行事のたびにどんなポーズをしていたかも写真を参考にした。自分やクラスの成長をあらためて実感し、児童同士の絆が深まった話し合いになった。

【研究討議・指導講評の概略】

- 映像や写真資料、黒板上での意見の「見える化（可視化）」が良かった。ただ、その資料を掲示するタイミングは考慮する必要があった。また、「反対」といういいかたがなかったことから、子どもたちの成長を感じることができた。
- 教師の最後の話の中で、～さんの意見がよかったねと、価値づけをどんどんしてあげることがやはり大切。クラス紹介の集会というのであれば、もっと「相手意識」をもたせることで、話し合いの方向性ができる。

## 夏の講演会

平成27年8月21日、横浜市特別活動研究会で長年にわたりご活躍されたお二人を迎え「これからの特別活動に期待すること」をテーマに講演会が行われました。

上妻先生からは、これからの時代の変化を読み、求められる資質・能力を育むことや、特別活動の可能性について、実践をまじえてお話いただきました。北村先生からは、これまでの教師人生でのさまざまな「出会い」から先生が培われた考え方や生き方、教訓などをお話いただき、我々後輩へのエールをいただきました。お二人の講師の先生方、本当にありがとうございました。

講師 元横浜市特別活動研究会会長  
前横浜市立折本小学校校長  
上妻 優美子先生

### <概要>

- 30年後の社会
- これからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力をいかに培うか
- 特別活動を通し、育てたい資質や能力
- 折本小での実践より
- 特別活動に期待すること



講師 前横浜市特別活動研究会会長  
前横浜市立山田小学校校長  
北村 利郎先生

### <概要>

- はじめに・・・論語より
- 教員になるまでの出会い
- 教員としての出会い
- 管理職としての出会い
- おわりに・・・一粒の種



## 全国特別活動研究協議大会

蝉しぐれが暑さを搔き立てる8月6日・7日、横浜の地で初めての全国大会を開催しました。

オフコース発祥の地「聖光学院 ラ・ムネホール」を全体会場として、全国から800名を超える参加者を、ピアノとバイオリンによるオフコースメロディで出迎え、大会が始まりました。

野球解説者の古田敦也氏の記念講演は、聴衆を魅了し、多くの方々的心に深く残るものでした。

2日目には、ウイリング横浜を会場として、全国の小学校・中学校・高校から26の提案がなされ、各部会では熱のこもった協議がなされました。

第59回を重ねる全国大会においても、稀有の実りある大会とすることができました。研究会員の皆様には、大会の運営から参加者への呼びかけ等々、筆舌に尽くせないほどのご協力をいただきました。誌上を借りて、改めて感謝申し上げます。

「大変だったけど、楽しかったね。夏」

本研究会の歴史に残る夏でした。

記 中尾小 高橋宏明

